

平成29年交通人身事故発生状況等

1. 事故総数

平成29年中に国立市内で交通人身事故は240件（前年比+12件）発生し、死者は2人（前年比+2人）、重傷者3人（前年比±0人）、軽傷者260人（前年比-5人）と、軽傷者数は減少しているものの、発生件数、死亡者数が増加した。

表1 平成29年中（1月～12月）の国立市の交通事故

区分 年	人身事故発生件数	死傷者数			
		死者数	重傷者数	軽傷者数	計
平成29年	240 ^件	2 ^人	3 ^人	260 ^人	265 ^人
平成28年	228	0	3	265	268
増減数	+12	+2	±0	-5	-3

また、都内における交通人身事故は、昨年と比較して軽傷者数が減少したものの、発生件数、死者数及び重傷者数は増加した。

表2 平成29年中（1月～12月）の都内の交通事故概要

区分 年	人身事故発生件数	死傷者数			
		死者数	重傷者数	軽傷者数	計
平成29年	32,763 ^件	164 ^人	754 ^人	37,240 ^人	38,158 ^人
平成28年	32,412	159	328	37,500	37,987
増減数	+351	+5	+426	-260	+171

2. 都内死亡事故の特徴

(1) 状態別、年齢別

状態別、年齢別では、高齢者の歩行中の事故が圧倒的に多い（全死者数の約27%が高齢者の歩行者である）。

表3 平成29年都内状態別、年齢層別死亡者数

区分	四輪車		二輪車		原付		自転車		その他	歩行者	計
	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗			
幼・園児										2	2
小学生				1			1			2	4
中学生											0
高校生											0
中卒～19歳			2								2
20～24歳	1	1	7		1					2	12
25～29歳		2	4				1			2	9
30歳代	3		6		2		3			3	17
40歳代	3		5		2		3		1	7	21
50歳代	4		5		2		6		1	11	29
60～64歳			1				1			3	5
65歳以上	3		3				13			44	63
計	14	3	33	1	7	0	28	0	2	76	164

(2) 高齢者（65歳～）の交通死亡事故（歩行中）発生状況

高齢者の歩行中の死亡事故については、合計44件（前年比+13件）のうち、約半数（24件）が何らかの違反があった事故である。

表4 違反別死者数（都内）

区分	歩行者								合計
	横断違反			信号無視	踏切不注意	酩酊徘徊	その他	違反なし	
	横断禁止場所横断	横断歩道外横断	斜め横断						
死者数	5	4	1	5	5	1	3	20	44

3. 自転車事故について

都内の交通事故全体に占める自転車事故の割合（自転車関与率）は以下のとおり。国立市においては、自転車関与率は41.7%（前年比+7.9ポイント）となっており、市部平均を9.3ポイント、都内平均を8.3ポイント上回っている。

表5 平成29年中の自転車の事故関与率（都内）

区分	交通事故発生件数	自転車関与件数	自転車関与率
国立市	240	100	41.7
区部	21,535	7,622	35.4
市部	10,105	3,271	32.4
都内	32,763	10,949	33.4

※自転車関与件数…自転車が第1当事者、第2当事者となった交通事故の合計件数から、自転車相互の事故件数を引いた件数

また、国立市内で発生した自転車交通事故の違反別件数は以下のとおり。

区分	自転車の違反								合計
	信号無視	交差点安全進行	一時不停止	運転操作誤り	前方不注意	安全不確認	その他	違反なし	
1当件数	1	5	2	3	1	5	6	0	23
2当件数	0	12	5	0	0	16	5	46	84
計	1	17	7	3	1	21	11	46	107

4. 多摩地域における比較

多摩 26 市における交通人身事故発生件数、人口、面積、道路延長及び自動車保有台数の比較を別紙資料No.2-2 に示す。

これによれば、国立市内における交通事故件数は、総数こそ他市に比べて少ないものの、決して交通事故率が低いとはいえない。

特に、交通事故件数と自動車保有台数は強い正の相関を示し、国立市における自動車保有台数 1 万台あたりの交通事故件数は多摩 26 市の中で 2 番目に高い水準となった。26 市平均が保有台数 1 万台あたり 55.2 件のところ、国立市では 85.5 件となり、交通事故率がかなり高いことがわかる。